

伊豆市共同企画展

— 横山大観、安田靉彦を中心 —

伊豆をめぐる名画

2019年 10月12日(土) — 2020年 1月13日(月・祝)

前期 | 10月12日(土) — 11月24日(日)
後期 | 11月27日(水) — 1月13日(月・祝)
会期中無休。ただし11月25日(月)、26日(火)は
展示替えのため臨時休館

会場 | 上原美術館 仏教館・近代館
開館時間 | 午前9時—午後5時(入館は午後4時30分まで)
入館料 | 大人 1,000円 / 学生 500円 / 高校生以下無料
* 仏教館・近代館の共通券です
* 団体10名以上は10%割引
主催 | 公益財団法人 上原美術館、伊豆市

前期 展示作品

安田靉彦《萬古天風》昭和5(1930)年



伊豆市共同企画展

— 横山大観、安田靉彦を中心 —

伊豆をめぐる名画

2019年 10月12日(土) — 2020年 1月13日(月・祝)

前期 | 10月12日(土) — 11月24日(日)
後期 | 11月27日(水) — 1月13日(月・祝)
会期中無休。ただし11月25日(月)、26日(火)は
展示替えのため臨時休館

会場 | 上原美術館 仏教館・近代館
開館時間 | 午前9時—午後5時(入館は午後4時30分まで)
入館料 | 大人 1,000円 / 学生 500円 / 高校生以下無料
* 仏教館・近代館の共通券です
* 団体10名以上は10%割引
主催 | 公益財団法人 上原美術館、伊豆市

後期 展示作品

横山大観《神州第一峰》(部分) 昭和5(1930)年



東洋と西洋の美の出あい

上原美術館
Uehara Museum of Art

東洋と西洋の美の出あい

上原美術館
Uehara Museum of Art

伊豆をめぐる名画

—横山大観、安田靫彦を中心にして—

伊豆という言葉は輝く海、険しい山、温泉、歴史、文学など、さまざまなイメージを思い起こさせます。川端康成は伊豆が「詩の国」、「歴史の縮図」、「南国の模型」、「海山のあらゆる風景の画廊」であると述べて、その魅力を語っています。こうした豊かな伊豆の自然と文化は、多くの日本画家たちをも惹きつけてきました。

明治41(1908)年、奈良で古画を学ぶ安田靫彦は胸を病んで帰京を余儀なくされます。そのとき、旅館を営む友人の相原沐芳の勧めにより伊豆・修善寺で静養することになりました。静養中に研究を重ねて自らの画風を見出した靫彦は、その後もたびたびこの地を訪ね、画家仲間の今村紫紅や小林古径、速水御舟らも集まるようになりました。明治末、横山大観も夫人や自らの療養のため修善寺を訪れ、沐芳と交流するようになります。昭和5(1930)年には大観らの渡欧壮行会が修善寺で開かれるなど、その繋がりは長く続きました。

こうした交流から伊豆は名画が生まれる場所となり、多くの作品が残されることになりました。本展では伊豆市が所蔵する絵画を通じて、伊豆の魅力、そして日本画の魅力をご紹介します。



後期 横山大観《神州第一峰》昭和5(1930)年
昭和5(1930)年、大観はローマの日本美術展開催のために渡欧。その直前、日本美術院同人により壮行会が修善寺の新井旅館で行われました。この覇気に満ちた豊峰・富士は、その滞在時に描かれたものといわれています。



前期 安田靫彦《萬古天風》昭和5(1930)年
「ふじのねを たかみかしこみ あまくももいゆきはばかり いきゆくもを」。箱裏には古典を深く学んだ靫彦らしく万葉集の句が添えられています。横山大観渡欧にあたって壮行会が行われた修善寺で描かれたものといわれています。

伊豆市について

伊豆市は平成16(2004)年に修善寺町、土肥町、天城湯ヶ島町、中伊豆町が合併して誕生しました。来たる令和2(2020)年には東京オリンピックの自転車競技が開催されます。東京からは直線の電車、特急踊り子号で約2時間、車では約2時間で行くことができます。下田市からは車で約1時間15分です。

伊豆・修善寺と相原沐芳

沼津に生まれた相原沐芳(1875-1945年)は東京で学業を修めるとともに日本画を学び、安田靫彦や今村紫紅らが結成した紅児会の画家たちと親しくなります。沐芳は後に妻の家業である修善寺・新井旅館を継ぎ、そこに友人である画家たちが集うようになりました。



前期 今村紫紅《枇杷叭叭鳥》大正元(1912)年頃
安田靫彦の盟友である今村紫紅。彼も靫彦の紹介で相原沐芳と親しくなり、修善寺を訪れました。日本画の将来を背負う画家として期待されながら35歳で亡くなった紫紅が、死の5年前に描いた大作です。



後期 安田靫彦《鴨川夜情》昭和9(1934)年頃
田能村竹田と頼山陽、青木木米が夜に鴨川で夕涼みをする様子が描かれています。本作は靫彦から相原沐芳に贈られた作品。穏やかな夜の情景はどこか修善寺温泉の風情にも似ているのかもしれませんが。

関連イベント
ミニ講演会「伊豆をめぐる名画」
日時 2019年11月8日(金)、12月14日(土) 13:30~15:00
※予約制、先着順、要入館券。各回とも同じ内容になります。
講師 土森智典(当館主任学芸員) 会場 上原美術館 会議室 定員 30名
予約方法 ①お名前、②ご住所、③お電話番号、④参加人数(2名様まで)、③参加希望日を明記の上、郵便はがき、もしくはeメール(info@uehara-museum.or.jp)にてお申し込みください。
学芸員による作品解説
日時 会期中の毎月第3土曜日 11:00~/14:00~ 所要約40分 会場 上原美術館展示室
参加方法 当日、仏教館にお集まりください ※要入館券

関連イベント

ミニ講演会「伊豆をめぐる名画」
日時 2019年11月8日(金)、12月14日(土) 13:30~15:00
※予約制、先着順、要入館券。各回とも同じ内容になります。
講師 土森智典(当館主任学芸員) 会場 上原美術館 会議室 定員 30名
予約方法 ①お名前、②ご住所、③お電話番号、④参加人数(2名様まで)、③参加希望日を明記の上、郵便はがき、もしくはeメール(info@uehara-museum.or.jp)にてお申し込みください。

学芸員による作品解説
日時 会期中の毎月第3土曜日 11:00~/14:00~ 所要約40分 会場 上原美術館展示室
参加方法 当日、仏教館にお集まりください ※要入館券

伊豆の仏教文化

複雑な地形を織り成す伊豆半島は古刹・修善寺をはじめ、古くから仏教文化が花ひらきました。そうした長い文化が近代の芸術家を惹きつける魅力の一つになったのかもしれない。今回の展示では修善寺に伝わる平安時代の独鈷杵なども展示し、伊豆に花ひらいた文化の源流を辿ります。



独鈷杵(平安時代・修善寺蔵)



後期 速水御舟《手向》大正2(1913)年
まだ浩然と名乗っていた19歳の御舟による作品。装飾的に描かれた鶯の葉や卒塔婆が琳派の影響を思わせます。この絵は描かれて間もなく、御舟から相原沐芳に贈られました。

- お車で 東名高速道路 沼津ICより下田方面へ 1時間40分
- 鉄道・バスで 東京駅より特急踊り子号 2時間40分 伊豆急下田駅下車 同駅より堂ヶ島方面行バス 20分 相玉下車 徒歩15分



東洋と西洋の美の出会い

上原美術館
Uehara Museum of Art

〒413-0715 静岡県下田市宇土金341
Tel. 0558-28-1228 www.uehara-museum.or.jp

伊豆の成り立ち

約2000万年前、伊豆半島は日本のはるか南にある海底火山でした。それらはやがてプレートとともに北上、本州と衝突して約60万年前に現在の伊豆半島が誕生します。そこには山々や森、温泉など豊かな自然が生まれ、多様な文化を育みました。平成30(2018)年、伊豆半島はユネスコの世界ジオパークに認定されています。こうした豊かな自然は伊豆が名画を生み出す背景となっています。



後期 川端龍子《湯浴(湯治)》昭和2(1927)年
温泉地・修善寺に別荘を構え、修善寺の檀家でもあった龍子は伊豆をテーマに多くの作品を残しています。龍子の娘がモデルとなった本作は修善寺の新井旅館で着想したといわれています。